

今月のコラム

ポタジェガーデン？



福井シード株式会社
井村 裕治

今回理事を仰せつかりました福井シード株式会社 井村 裕治でございます。少しでも皆様のお役に立てることが出来ればと考えております。若輩者ですがよろしくお願ひいたします。

理事としての最初の仕事がこのカエデのコラムになります。『何を書いても良いですよ』との温かい言葉を、そのまま信じて書いてみたいと思います。

先日のセミナーでパネラーを勤めさせていただいた時にも申し上げましたが、私は『ポタジェガーデン』という言葉が好きで、考え方は大好きです。この言葉を聞いたことが無い人は、何かあたらしい考え方なのではと興味がわきます。そしてこの考え方は、昔の田舎の家の周りそのままに思えて、とても楽しそうです。私は福井県の田舎の生まれで、家の周りは生垣があり、防風林があり、畑があり、果樹が植えてあり、仏様にお供えする花が植えてあり、勝手にフキやミョウガが生えて、落ち葉で焚き火をして焼き芋を作り、生ゴミ捨て場でミミズを飼い、そのミミズを餌に川で魚を釣り、捕まえた蛭の為にアスパラガスの葉を折りました。つつじの花の蜜を吸い、柿の木で虫に刺され、へびに驚かされました。雪の下から大根、ネギ、キャベツを掘り、青臭いトマトをかじっていました。刈った草と落ち葉をまとめて堆肥を作り、卵の殻は砕いて果樹の根元に撒いてありました。その頃は何の意味があつてそうになっていたのか理解できませんでしたが、今は、何となく理解できるような気がします。これは私が育った環境で思うポタジェガーデンです。皆さん其々に思い出のポタジェガーデンがあるので無いでしょうか？

是非あなたとあなたの家族の為にポタジェガーデンを作っていたいだきたいと思っています。そして、家族と食育や花育といわれることを、知識ではなく体感してもらえたら最高です。

私の仕事は種苗の生産・販売と育種で、主に野菜の育種、種の生産・販売を行なっております。大変美味しいと評価していただき、全国でご利用いただいている品種として中玉トマト、ミディトマトといわれる40～50g程度の大きさのトマトで、華小町、華クイン、華おとめ等があります。日本で初めて中玉トマト・ミディトマトを開発したのは『福井県』で、当時の福井県立短期大学で開発されました。『越のルビー』という大変美味しい品種で、現在も生産・販売されていますのでお聞きになられた方も多いのではないでしょうか？ 弊社の品種共々、スーパー等の店頭で見かけた際は是非食べてみてください。

『美味しい野菜の始まりはタネ』にあると考えています。秋の夜長に、お正月に、雪の日にコタツに入りながら、春に植える品種を考える。畑を考える。花壇を考える。

さあ、ポタジェガーデンの 始まりです。



ミニトマトの新品種
「ミニヨン」



カエデ
kaede

“ポタジェガーデン”で勝ち抜く新ワークショップシリーズ第3回

家庭菜園の魅力をもっと知ろう！提案しよう！！

～庭づくりのプロに求められる「家庭菜園」(ポタジェガーデン)作りのポイント～

家庭での野菜作りが世界的なブームとなっています。食の安全や食育など誰もが喜ぶこのブーム。それだけに庭づくりのプロは、菜園づくりの本質を理解し、デザイン、テクニック、注意点をきちっと把握しておき、一過性のブームではなく、生活の一部として定着するための提案力・知識が必要です。

- 11月26日(木) 15:00～17:30
- ユニマット青山ビル(東京都港区)
- 募集 30～40名
- 会費 2000円(会員)
- ※詳細は事務局または
HP <http://www.npogarden.com>

<パネラー>

東京農業大学農学部バイオセラピー学科 准教授	木村 正典 氏
越ガーデンデザイン事務所 代表	越 洋子 氏
株式会社プロトリーフ 庭とくらし事業部 部長	佐藤 圭太 氏
北越農事株式会社 営業第二部 次長	坂田 渉 氏
コーディネーター 株式会社リック 常務取締役	小松 正幸 氏

国際ガーデンEXPO 11月11日-13日

『家庭菜園』ゾーンなど新設し、過去最多規模で

ガーデン業界日本最大の国際商談展「第3回 国際ガーデン EXPO GARDEX (ガーデックス)」が、11月11日(水)～13日(金)、例年と同じ幕張メッセにて開催される。今年では世界30カ国より過去最多の870社が出展(同時開催展含む)、世界中から最新の園芸資材、緑化資材が一堂に集結する。同時開催「第1回 国際エクステリアEXPO」「第6回 国際フラワーEXPO」にも、最新のエクステリア資材、園芸種苗などが集結、過去最大規模にて開催される。特に今年が目玉は『家庭菜園』『ガーデン雑貨』『工具・道具』に焦点をあてた新ゾーン。新ゾーンの誕生により、業界初の新規企業、新商品も続々と出展する。

<http://www.gardex.jp/>



当会のシンボルマークについて

今年、当会のシンボルマークが制定され、本会報「kaede」の4頁に掲載していますが、会員各位が名刺などに印刷する場合には、データをメールでお送りします。ご希望者は、申請書を事務局までお送りください。申請書の申請はメールもしくはFAXにて「会のシンボルマーク使用申請書希望」と書いてご連絡ください。

会員より申請書を受け取りましたら、総務委員会にて、目的・使用方法が妥当かどうか確認の上、ご連絡いたします。





カエデ
kaede

フラワートライアル2009秋

花の総合展示会として期待高まる

種苗・生産各社が来春に向けて新商品を発表する「フラワートライアル2009秋」が9月28～30日、長野と山梨にまたがる八ヶ岳南西麓の7会場で開催された。当地で数年来、種苗会社が流通関係者向けの展示会を開催していたが、昨年より「フラワートライアル」の名の下、地図を掲載した共通のチラシを作成するなど、来場者が効率的に各会場を回れるよう便宜を図っている。

当会が野菜販売に関するワークショップをバラクラで同時開催したことで注目がより高まり、期間中には1000人近い業界関係者が周辺を訪れ、早くも「秋の八ヶ岳を園芸業界のメッカに！」の声も聞かれた。

写真説明：フラワートライアル、バラクラ会場



メリー・ファーマング・フェスタ

人と農をメリー（笑顔）でつなぐ

9月19・20の土日、日比谷公園近くの多目的広場「日比谷パティオ」で、農業の新しい魅力を発信するイベント「メリー・ファーマング・フェスタ」が開催された。漁業に釣り（Fishing）という趣味があるように、農業をもっと身近に感じ、趣味のように楽しんでもらうために Farming（ファーマング）という考え方を提唱。「知る」「育てる」「つながる」「食べる」をキーワードに、2日間で1万人以上の人々が楽しんだ。主催は広告ポスターやCMなどで活躍するアート・ディレクターの水谷孝次氏を中心に、都内で情報フリーペーパー「TOKYO HEADLINE」を発行するヘッドライン(株)など。

＊育てる—

「みんなで大きなカカシをつくろう！」

野菜等の段ボールをリユースした巨大カカシづくり。来場した子どもたちがつくる小さなカカシが組み合わせられ、最終的に約4mのカカシが出来上がり。夜には幻想的にライトアップされ、会場のシンボルとなった。



会員紹介

グリーンポット社は「L'armonia con la terra」（地球とのハーモニー）を理念として、素焼鉢のテラコッタを中心としたガーデン用品やエクステリアを輸入・販売、そして自ら開発・デザインをしています。

植物にやさしい通気性に富む高級テラコッタから大型のデザインポット、インテリアポットまで多種多様の商品を取り扱っています。弊社ウェブサイトで新商品情報等を紹介しております。ぜひご覧になってください。

お問い合わせ

株式会社グリーンポット
兵庫県三木市吉川町上荒川748-25
TEL 0794-76-2688
URL <http://www.greenpot.co.jp>





カエデ
kaede

コラム

エクステリア&ガーデンデザイナーを目指す方に知って欲しいこと

株式会社E & Gアカデミー 常務取締役 田中 真一



E & Gアカデミーは、エクステリア&ガーデンのデザイナー/プランナーを養成する専門校として、開校12年目を迎えました。学校運営を通じて、普段感じていることを書かせていただきました。

★「想像力=創造力」

これまで、多くの生徒と接して来て、確信を持って言えるのが、「想像力のある生徒ほど、習得する能力が高い」ということです。先生の講義を聞いて、自分なりに解釈した上で「その先を考える」ことができる生徒は、他の生徒と比べると習得のスピードが速く、課題の出来栄も、日を追って良くなります。「想像力」が働く生徒は、自分の考えを形にして表現する方法（図面やスケッチなど）を覚えてしまえば、設計デザインのレベルは、傍で見ていて驚くほど上がって行きます。つくづく「想像力=創造力」だと感じます。

★究極のプレゼンテーションとは？

これは、ある先生の受け売りですが、究極のプレゼンテーションとは、「言葉」だけで契約を取るのだそうです。図面やパースを書かずに「お客様と会話する」だけで契約できる。そんなことができれば、これほど効率の良い方法は無いわけで、わざわざE & Gアカデミーで製図やパースを勉強する必要もありません。

しかし、この究極のプレゼンテーションは、この業界において、確かに存在したのです。ご承知のように、昔の「庭師」さんは、「俺に任せておけば悪いようには、しないから」と言って契約を取っていたのであり、しかも、完成後に金額を提示するという、間違いなく黒字になる「超効率的」なビジネス形態だったのでした。

確かに、このビジネス形態は、現在では考えられないことであり、今のユーザーに受け入れられるとも思えず、事前に「完成後のイメージ」を明確に伝えることができなければ、とても「お客様の理解」を得ることはできないという、「設計プレゼンテーション至上主義」の業界になっています。

ただ、昔話とはいえ、簡単に見ず知らずの「庭師」を信用するものでしょうか？昔の「庭師」さんは、「言葉」という武器だけで勝負していた訳ではなく、「作庭」という実績を積み重ねることで、近所での評判を高めていったのであり、「あの庭を造った庭師なら信用できる」という、その「庭師=作った庭」に対する信頼感があればこそ、「言葉のプレゼンテーション」が成立していたのではないのでしょうか？

この現場という実績を積み重ねて、信頼を築いていくというスタイルは、当然ながら、今のデザイナーにも通じるものであり、「外構造園」という「形に残る」仕事だからこそ、最も大切にしなければならない要素ではないでしょうか。

★「温故知新」：先人の言葉に学ぶ

作庭家・故岩城巨太郎氏の言葉に、「その造園家の人格以上の庭は作れない」という名言があります。「作庭」という仕事の世界観を端的に表していて、「庭園」の本質を物語っています。また、建築家・故宮脇檀氏の「眼を養い、手を練れ」という言葉も、デザイナー/設計者を目指す方には、かけがえの無い名言です。

「養眼練手」という4字熟語にして欲しいくらいです。お二人は、造園・建築という関連分野の巨匠であり、この名言は、生徒にも紹介しています。

★日比谷公園ガーデニングショー 2009「東京都知事賞」受賞

去る10月24日、日比谷公園ガーデニングショー・ガーデン部門において「東京都知事賞」を頂きました。例年、授業の一環として、ガーデニングショーへの出展を行って来ましたが、大変名誉なことであり、生徒にとって大きな自信になりました。



事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

今年は秋らしい秋のせいか、十種類ほど蒔いた種がすべて発芽し、中にはリナリアのように数百も芽を出し移植しきれないものも。フリージアやムスカリの小球根も植え切れなほど収穫してあり、購入した球根も加えて日曜ごとに移植したり植え込んだり、2ヶ月ほど園芸を満喫しました。